

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会	主 査 名：杉江 聡 就任年月：2013 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間哲哉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築音響に関する測定方法について調査および検討を行う。</li> <li>・ フランキング成分を把握するための測定方法について検討を行う。</li> <li>・ 材料の吸音率測定や音場把握のために pu センサの適用に関する検討を行う。</li> <li>・ 実騒音を用いた外周壁遮音性能測定方法について検討を行う。</li> <li>・ A 特性による遮音性能評価に関する検討を行う。</li> <li>・ 15 年度: 上記検討の共同実験計画および実施。A 特性評価:測定上の課題整理。</li> <li>・ 16 年度: 前年度実験結果による適用範囲検討および新たな共同実験の計画および実施。なお、pu センサ:シンポジウム開催。A 特性評価:課題整理。</li> <li>・ 17 年度: 前年度からの継続した検討および新たな取り組みに関する議論</li> <li>・ 18 年度: 全体取りまとめ</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し	
	主査: 杉江聡 (小林理研) 幹事: 平光厚雄 (国総研)、山内崇 (戸田開発セ) 委員: 赤尾伸一 (三井住友技研)、稲留康一 (奥村組技研)、織田慎一 (NHK)、古賀貴士 (鹿島技研)、酒巻文彰 (永田音響設計)、坂本慎一 (東大生研)、竹林健一 (鹿島技研)、田中学 (日総試)、富来礼次 (大分大)、宮島徹 (清水技研)、矢野博夫 (千葉工大)、渡辺充敏 (大林組技研)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2016 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 77 回音シンポジウム[pu センサを用いた音響計測の現状と可能性] 参加者数 47 名 資料名：同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. フランキング成分把握のための音響インテンシティ計測に関して、2015 年度実施の共同実験結果についての議論を行った。 2. pu センサを用いた室内の音響エネルギー密度測定および校正に関する検討を実施し、シンポジウムを開催した。 3. A 特性による遮音性能評価を行う際の測定上の課題を整理し、データの収集を行った。
委員会活動の問題点 ・ 課題	委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><u>1. 音響インテンシティシティ法の検討</u> 15年度: 局所的な漏洩音(室間遮音性能測定におけるフランキング成分)の計測に音響インテンシティ法を適用することを目的として、他の部位からの発生音の影響を把握するために、反射壁を用いた、より実際に近い音場を想定した共同実験を行った。 16年度: 引き続きデータ整理を行った。</p> <p><u>2. pu センサを用いた吸音率および音場性状把握に関する検討</u> 15年度: 前年度まで実施した音響エネルギー密度の測定結果を再分析し、文献等でセンサ校正方法について委員間の知識の共有を行った。 16年度: pu センサを用いた音響エネルギー密度計測(室内分布性状、床衝撃音、室間遮音への応用)およびセンサの校正について共同実験を追加で行い、実験結果について議論した。また、本センサに精通する研究者を招き、本検討結果も含めて、シンポジウムを開催した。</p> <p><u>3. A 特性による遮音性能評価の検討</u> 15年度: 音環境規準検討小委の依頼により、A 特性による遮音性能評価の際の測定上の課題を整理した。 16年度: 引き続き課題整理および遮音性能データの収集を行った。</p> <p><u>4. 実騒音を用いた外周壁の遮音性能測定の検討</u> 15年度, 16年度: 実施可能な適切な施工物件が見つからず実施しなかった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
  - 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
    - A 評価: 小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
    - B 評価: 小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
    - C 評価: 小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
    - D 評価: 小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
  - 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- \*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。